

捕獲等事業評価シート

様式

ニホンジカ・イノシシ

(宮崎県 自然環境課)

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	日之影・延岡地域（日之影町見立地区、二俣鳥獣保護区、行膝山鳥獣保護区）
事業主体	宮崎県自然環境課
事業実施期間	令和6年9月24日～令和7年3月14日
捕獲手法	誘引式くくりわな
事業メニュー	③メニュー市町村連携タイプ
事業費	8,786,800 円

事業実施地域	県北地域（尾鈴山鳥獣保護区）
事業主体	宮崎県自然環境課
事業実施期間	令和6年9月25日～令和7年3月14日
捕獲手法	くくりわな
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	5,636,400 円

事業実施地域	県南地域（天神ダム周辺）
事業主体	宮崎県自然環境課
事業実施期間	令和6年9月24日～令和7年3月14日
捕獲手法	くくりわな
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	1,372,632 円

事業実施地域	霧島山地地域（霧島鳥獣保護区、平成の森鳥獣保護区）
事業主体	宮崎県自然環境課
事業実施期間	令和6年12月3日～令和7年3月14日
捕獲手法	誘引式くくりわな
事業メニュー	③メニュー広域連携タイプ
事業費	8,783,160 円

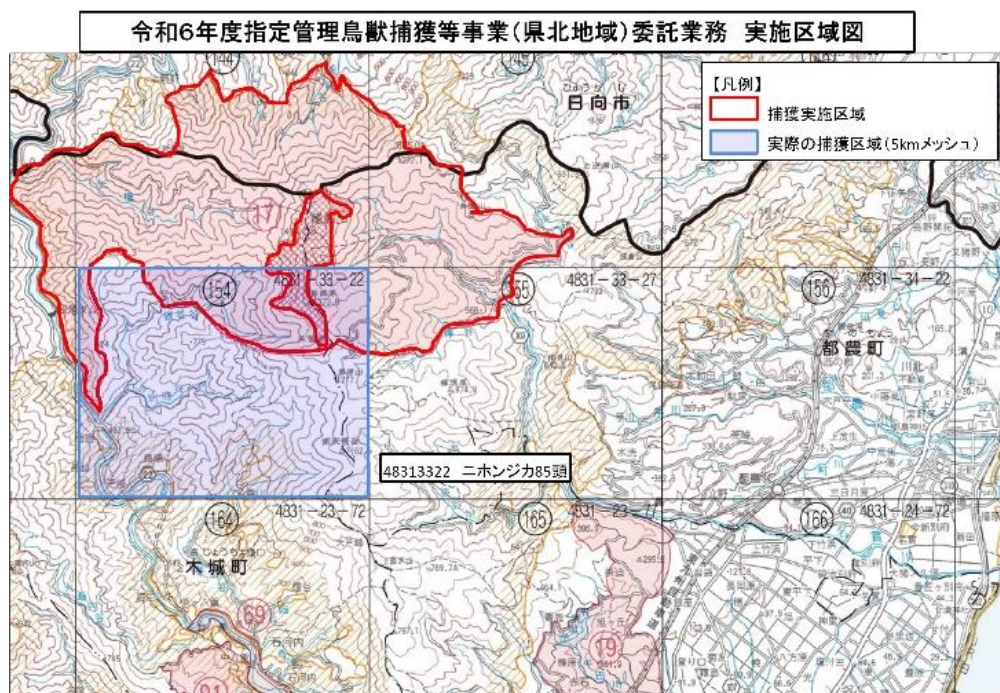
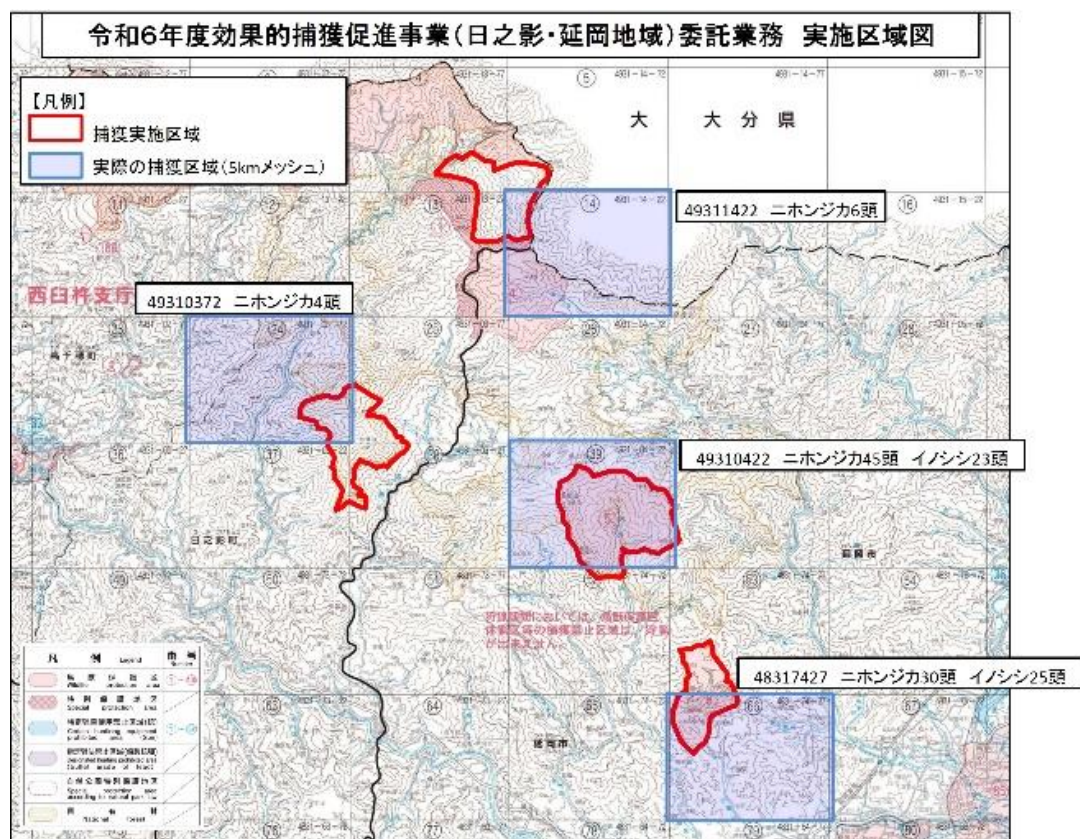
■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	○日之影・延岡地域 ニホンジカ：85 頭 イノシシ：47 頭 ○県北地域 ニホンジカ：85 頭 ○県南地域 ニホンジカ：20 頭 ○霧島山地地域 ニホンジカ：115 頭 イノシシ：32 頭 ○合計 ニホンジカ：305 頭 イノシシ：79 頭	○日之影・延岡地域 ニホンジカ：85 頭 イノシシ：48 頭 ○県北地域 ニホンジカ：85 頭 ○県南地域 ニホンジカ：21 頭 ○霧島山地地域 ニホンジカ：132 頭 イノシシ：40 頭 ○合計 ニホンジカ：323 頭 イノシシ：88 頭	捕獲目標の達成率はニホンジカで 106%、イノシシで 111%であった。全ての地域で目標以上の捕獲を達成している。
捕獲作業量	○日之影・延岡地域 6,000 台日 ○県北地域 3,863 台日	○日之影・延岡地域 5,367 台日 ○県北地域 2,817 台日	概ね計画通りの作業量を投じることができた。

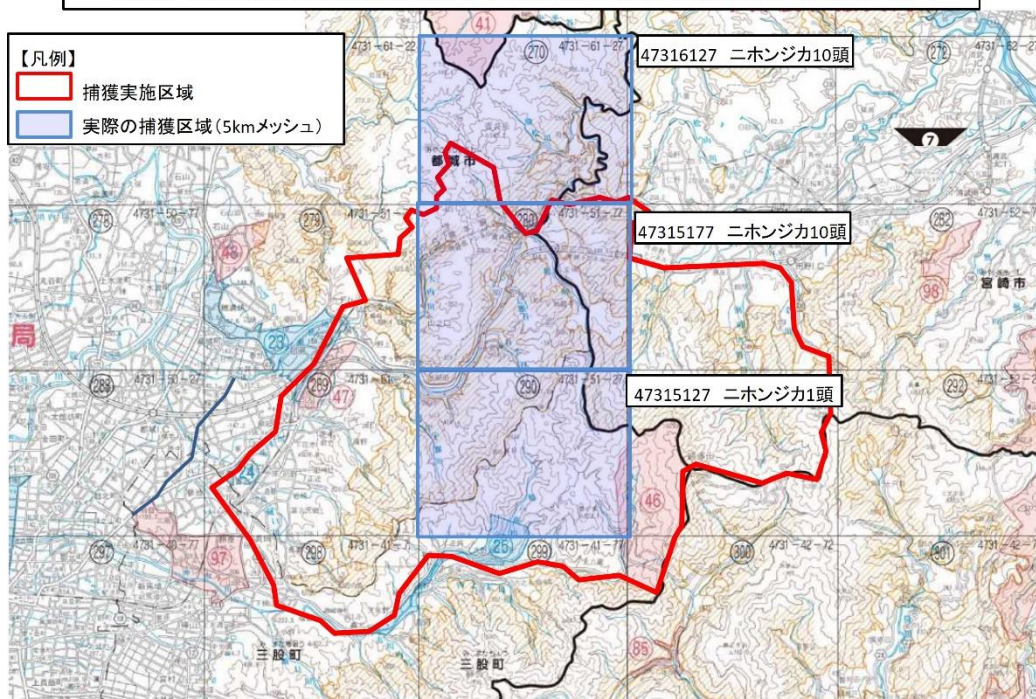
捕獲作業量	○県南地域 909 台日 ○霧島山地地域 6,681 台日	○県南地域 1,884 台日 ○霧島山地地域 9,211 台日	
効率的な捕獲	○日之影・延岡地域 0.017 頭／台日 ○県北地域 0.054 頭／台日 ○県南地域 0.016 頭／台日 ○霧島山地地域 0.019 頭／台日 ○全体 0.026 頭／台日 ※R5 事業の捕獲効率 ※シカ・イノシシ両方の 合算値	○日之影・延岡地域 0.025 頭／台日 ○県北地域 0.030 頭／台日 ○県南地域 0.011 頭／台日 ○霧島山地地域 0.019 頭／台日 ○全体 0.021 頭／台日 ※シカ・イノシシ両方の 合算値	県北地域の捕獲効率の減少については、当該区域は令和元年度から捕獲事業に取り組んでおり、長年の捕獲事業実施による効果の可能性はあるが、被害状況や周辺区域の生息密度調査結果等によりその効果を検証する必要がある。
事業に要した人員数	○日之影・延岡地域 200 人日 ○県北地域 129 人日 ○県南地域 31 人日 ○霧島山地地域 223 人日	○日之影・延岡地域 480 人日 (0.277) ○県北地域 256 人日 (0.332) ○県南地域 437 人日 (0.048) ○霧島山地地域 287 人日 (0.460) ※括弧内の数字は 1 人 当たりの捕獲頭数	予定人数以上の人員数を投じて作業を実施した。 県南地域の 1 人当たりの捕獲頭数が少ないのは、当該区域はニホンジカの侵入初期の区域であり、シカの生息密度が低い場所であるため。
安全管理体制	各事業者が作成している「鳥獣保護等事業の実施に係る安全管理規程」を提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	事業者が作成した「業務実施計画書」により、各地域で以下のとおり処理方法を定める。 ○日之影・延岡地域 ○県北地域 ジビエ施設への搬入又は自家消費（犬等のえさ） ○県南地域 捕獲場所周辺での埋設又は自家消費 ○霧島山地地域 区域外へ搬出し埋設又は自家消費	提出した計画に沿って作業を行った。埋設処理については獣による掘り起こし等は発生しなかった。	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・捕獲場所における捕獲後の整地 ・自然公園区域内の捕獲においては、捕獲個体の区域外への搬出	・捕獲場所における捕獲後の整地 ・自然公園区域内の捕獲においては、捕獲個体の区域外への搬出	予定通りの計画で事業は遂行された。

捕獲個体の属性	○日之影・延岡地域 ニホンジカ ・オス 22 頭、メス 56 頭 ・成獣 68 頭、幼獣 10 頭 イノシシ ・オス 26 頭、メス 24 頭 ・成獣 26 頭、幼獣 24 頭 ○県北地域 ニホンジカ ・オス 46 頭、メス 32 頭 ・成獣 75 頭、幼獣 3 頭 ○県南地域 ニホンジカ ・オス 17 頭、メス 8 頭 ・成獣 22 頭、幼獣 3 頭 ○霧島山地地域 ニホンジカ ・オス 23 頭、メス 59 頭 ・成獣 57 頭、幼獣 25 頭 ※前年度実績 ※霧島山地地域は前年度 イノシシの捕獲はなし	○日之影・延岡地域 ニホンジカ ・オス 33 頭、メス 52 頭 ・成獣 77 頭、幼獣 8 頭 イノシシ ・オス 24 頭、メス 24 頭 ・成獣 23 頭、幼獣 25 頭 ○県北地域 ニホンジカ ・オス 43 頭、メス 42 頭 ・成獣 85 頭、幼獣 0 頭 ○県南地域 ニホンジカ ・オス 10 頭、メス 11 頭 ・成獣 20 頭、幼獣 1 頭 ○霧島山地地域 ニホンジカ ・オス 34 頭、メス 98 頭 ・成獣 126 頭、幼獣 6 頭 イノシシ ・オス 21 頭、メス 19 頭 ・成獣 33 頭、幼獣 7 頭	県南地域のメス比が昨年度より高い傾向であるが、捕獲区域は県南地域外の場所であり、県南地域のシカの定着を示唆するものではない。 霧島山地地域は昨年度に引き続きメス比が高い傾向にあることから、個体数の増加が示唆されるため、今後も継続的な捕獲が必要である。
----------------	---	--	--

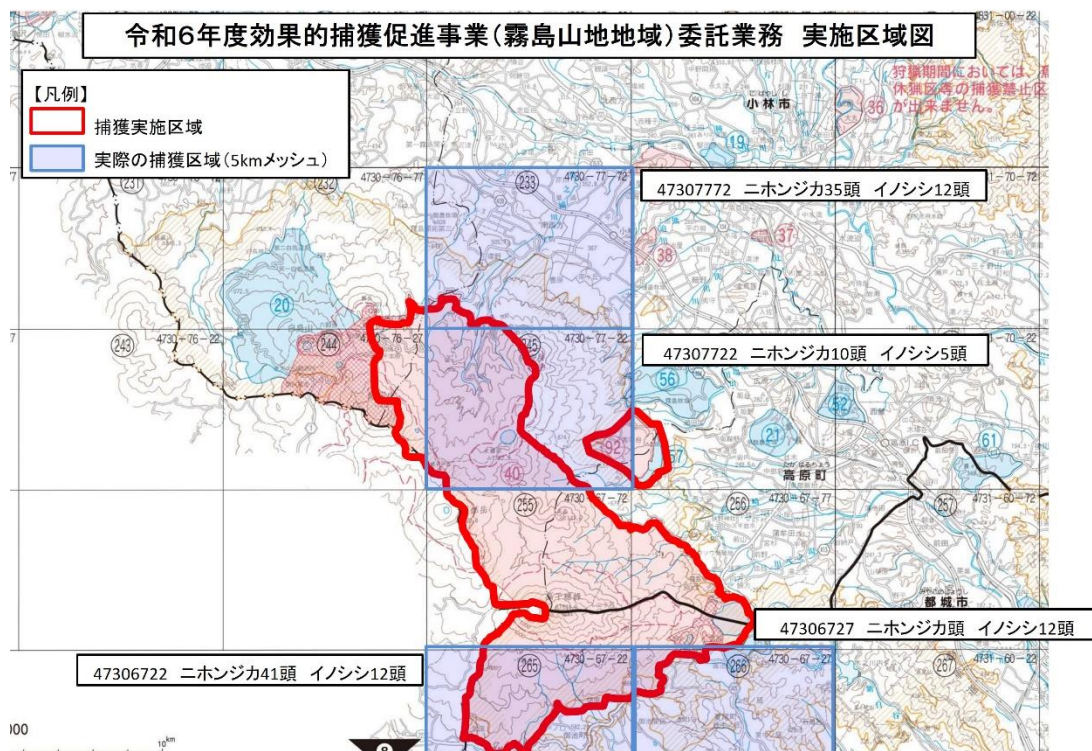
捕獲区域図



令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業(県南地域)委託業務 実施区域図



令和6年度効果的捕獲促進事業(霧島山地地域)委託業務 実施区域図



STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

日之影・延岡地域

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	（ニホンジカ） ・生息密度 令和5年度：32.7 頭／km² ・効果的捕獲促進事業における捕獲効率（CPUE） 令和5年度：0.017 頭／基日 （イノシシ） ・周辺区域の捕獲頭数（有害鳥獣捕獲、狩猟） R3:787 頭、R4:1,315 頭、R5:772 頭 ・効果的捕獲促進事業における捕獲効率（CPUE） 令和5年度：0.011 頭／基日
事業実施後もしくは事業終盤・後半	（ニホンジカ） ・生息密度 令和6年度：16.5 頭／km² ・捕獲効率 令和6年度：0.016 頭／基日 （イノシシ） ・周辺区域の捕獲頭数（有害鳥獣捕獲、狩猟） 令和6年度：922 頭 ・効果的捕獲促進事業における捕獲効率（CPUE） 令和6年度：0.010 頭／基日
評価	（ニホンジカ） 生息密度は減少傾向にあるが、本県が目指す目標値からは高い状況であることから、今後も有害捕獲、狩猟、指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲を進めていく。 （イノシシ） 捕獲効率に大きな変化がない。一方で周辺区域での捕獲頭数においては、年度による捕獲頭数の増減に波がある状態で、生息頭数の減少の傾向は判断できない。 生息頭数の増減の判断となる指標について今後検討する必要がある。

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	（ニホンジカ） ・食害、森林被害状況 場所によりばらつきがあるが、行膝鳥獣保護区周辺では低木層の食害率が高い傾向、見立地区周辺では草本類の食害率が高い傾向がある。 また、スギ・ヒノキの剥皮被害や枝葉の食害も見られ、特に見立地区の枝葉の食害は高い。 ・農林作物被害の状況 事業開始年前の令和3年度まで、当該区域のニホンジカによる農林作物被害は増加傾向。

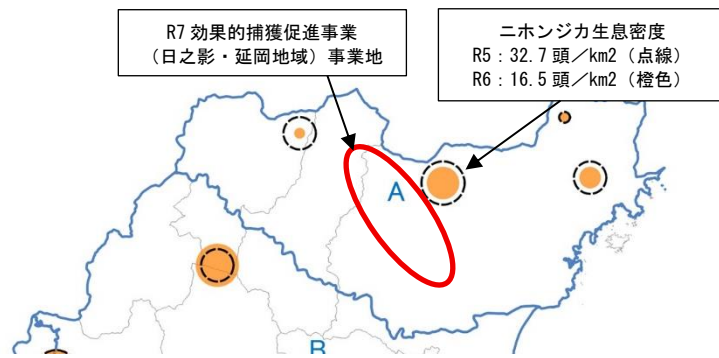
	(イノシシ) ・農林作物被害の状況 平成30年度から令和4年度までは、令和2年度に被害額が増加したものの、ほぼ同程度の被害額となっている。
事業実施後もしくは事業終盤・後半	(ニホンジカ) ・食害、森林被害状況 事業実施前と比較して、見立地区の食害やスギ・ヒノキへの被害は減少傾向であるが、それ以外の地域では被害の減少は見られていない。 ・農林作物被害状況 平成30年から令和5年の被害状況では、令和3年度まで増加傾向、そこから令和5年度までは減少傾向であったが、令和6年度に増加に転じた。 (イノシシ) ・農林作物被害状況 令和4年度以降全体的には少しずつ減少傾向にあったが、令和6年度は被害額が増加した。
評価	(ニホンジカ) 見立地区の被害の減少など一定の効果がみられる。 生息密度も減少傾向であることから、シカの生息頭数については減少傾向にある可能性はある。 短期的な指標では、生息頭数の状況に関する判断が難しいため、継続して調査を行い、事業による効果の検証を行う。 (イノシシ) 令和6年度の被害額は、昨年度と比較すると増加に転じているものの、昨年度までは概ね横ばいであったことから、今年度の増加がイノシシの生息頭数の増加を反映しているかどうかについては判断が難しい。 捕獲頭数や、効果的捕獲促進事業による捕獲効率に大きな変化がないことから、単純に生息頭数の増という判断は考えにくいいため、引き続きモニタリングを実施し、イノシシの低減効果を測定する。

R6 効果的捕獲促進事業（日之影・延岡地域）捕獲効率（ニホンジカ）

実施地域	保護区名	管理区分	ハンダーマップ (メッシュの番号)	CPUE (頭/基日)	CPUE (前回)	
日之影・延岡地域	見立	A	14	0.027	-	-
			24	0.029	-	-
	二股		39	0.018	0.020	-
	行膝山		66	0.012	0.013	-
日之影・延岡地域小計				0.016	0.017	

R6 効果的捕獲促進事業（日之影・延岡地域）捕獲効率（イノシシ）

実施地域	保護区名	管理区分	ハンターマップ (メッシュの番号)	CPUE (頭/基日)	CPUE (前回)	
日之影・延岡地域	二股	A	39	0.009	0.011	
	行膝山		66	0.011	0.010	
日之影・延岡地域小計				0.010	0.011	



日之影・延岡地域 ニホンジカ生息密度

県メッシュNo.	R3	R4	R5	R6	平均
48317422	69	116	156	128	117.3
48317427	316	507	315	355	373.3
48317472	63	92	42	66	65.8
48317477	58	120	39	121	84.5
49310322	120	162	83	115	120.0
49310327	46	56	25	72	49.8
49310372	9	77	17	36	34.8
49310377	13	9	4	4	7.5
49310422	1			1	1.0
49310472	18	32	34		28.0
49311322	59	79	53	21	53.0
49311327	15	1	1		5.7
49311372		56			56.0
49311377		8	3	3	4.7
年度合計	787	1315	772	922	

効果的捕獲促進事業（日之影・延岡地域）事業実施区域周辺のイノシシ捕獲頭数
※集計は狩猟及び有害鳥獣捕獲によるもの

日之影・延岡地域 食害・森林被害状況
令和4年度

	草本被食率	低木被食率	ササ被食率	ディアライン	剥皮	森林被害	被害率
行徳2	1未満	50以上	—	なし	なし	—	
行徳5	25-50	25-50	—	なし	有	—	
二股A	—	—	1未満	なし	なし	○ 枝葉被害	20未満
二股C	1未満	1未満	1未満	なし	なし	—	
日之影鹿川	50	10-25	1-10	なし	有	○ 樹皮被害	10
日之影仲村	10-25	1未満	1未満	なし	なし	○ 枝葉被害	60

令和6年度（行徳・二股は令和5年度）

	草本被食率	低木被食率	ササ被食率	ディアライン	剥皮	森林被害	被害率
行徳2	1未満	50以上	—	なし	なし	—	
行徳5	10-25	25-50	—	なし	有	—	
二股A	—	—	1未満	なし	なし	○ 枝葉被害	20未満
二股C	1未満	1未満	1未満	なし	なし	—	
日之影鹿川	1-10	10-25	1-10	なし	なし	×	
日之影仲村	1-10	1未満	1未満	なし	なし	×	

※ 「—」についてはデータなし

※ 森林被害の「×」は被害なし

※ 青色塗りつぶしは、令和4年度から改善している項目

日之影・延岡地域 食害・森林被害状況（ニホンジカ）

■ 事業実施地域

県北地域

■ 出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	(ニホンジカ) ・生息密度 令和5年度：17.5 頭/km ² ・捕獲効率 令和5年度：0.054 頭/基日
事業実施後もしくは事業終盤・後半	(ニホンジカ) ・生息密度 令和6年度：4.9 頭/km ² ・捕獲効率（CPUE） 令和6年度：0.030 頭/基日
評価	(ニホンジカ) 生息密度は前年度から大きく減少しているほか、捕獲効率も下がっていることから、この地域の生息密度は減少傾向と考えられるが、短期的なデータのため減少しているとは断言できないため、今後も当該区域の調査を継続し、密度低減効果を検証する。

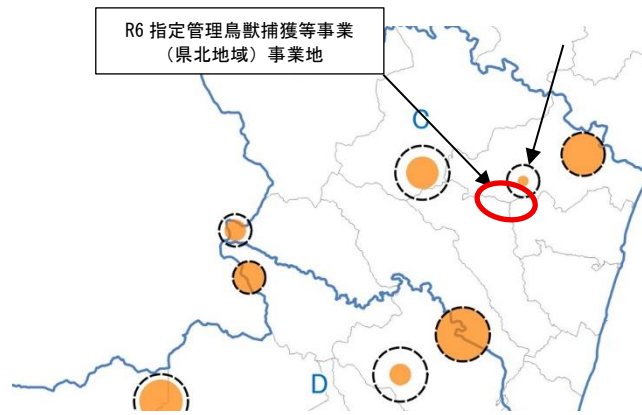
■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	(ニホンジカ) ・食害、森林被害状況 草本類の食害及び低木層の食害が高い状況だが、スギ・ヒノキ等への被害はない。 ・農林作物被害状況 平成30年度からこの地域の被害額は増加傾向となっている。
事業実施後もしくは事業終盤・後半	(ニホンジカ) ・食害、森林被害の状況 食害も森林被害も増加傾向にある。低木の食害が顕著に増加しているほか、森林被害がなかった場所が軒並み被害にあっている状況。 ・農林作物被害状況 被害額は令和5年度から大幅に減少している。
評価	(ニホンジカ) 農林作物への被害は減少している一方で、森林内の食害の被害が増加していることから、推定密度の単純な減少ではなく、シカの群れが移動したことによる被害の結果の可能性がある。 効果的に捕獲を進めるために、捕獲場所の変更により、広域に捕獲圧をかける必要があると考えられる。

実施地域	保護区名	管理区分	ハンターマップ (メッシュの番号)	CPUE (頭/基日)	CPUE (前回)
県北地域	尾鈴山	C	154	0.030	0.054 R5
県北地域小計				0.030	0.054 R5

R6 指定管理鳥獣捕獲等事業（県北地域）捕獲効率（ニホンジカ）

ニホンジカ生息密度
R5：17.5 頭/km²（点線）
R6：4.9 頭/km²（橙色）



県北地域 ニホンジカ生息密度

県北地域 食害・森林被害状況

令和4年度

(単位：%)

	草本被食率	低木被食率	ササ被食率	ディアライン	剥皮	森林被害	
都農町	50以上	25-50	1未満	なし	なし	×	
都農町2	50以上	25-50	1未満	なし	なし	×	
木城町	—	1未満	1未満	なし	なし	×	

令和6年度

	草本被食率	低木被食率	ササ被食率	ディアライン	剥皮	森林被害		被害率
都農町	50以上	25-50	1未満	なし	有	○	樹皮被害	10
都農町2	—	50以上	1未満	なし	有	○	枝葉・樹皮被害	30
木城町	—	25-50	1未満	なし	有	○	樹皮被害	30

※ 「—」についてはデータなし

※ 森林被害の「×」は被害なし

※ 橙色塗りつぶしは、令和4年度から悪化している項目

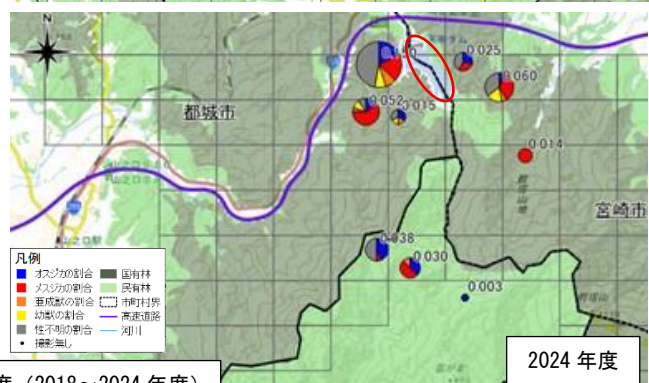
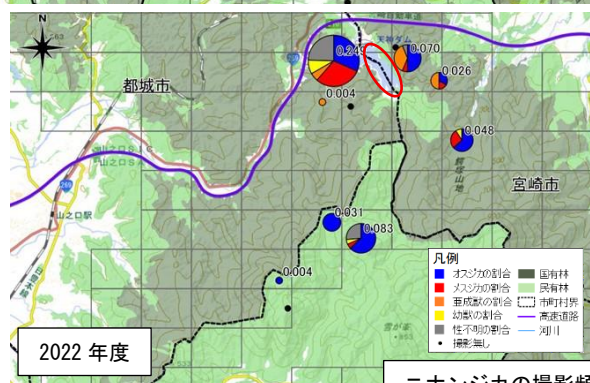
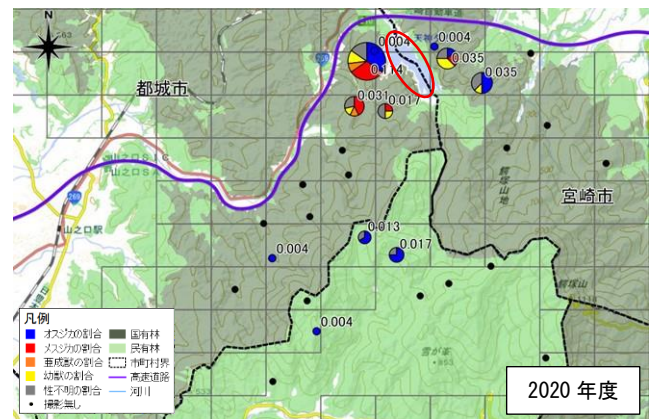
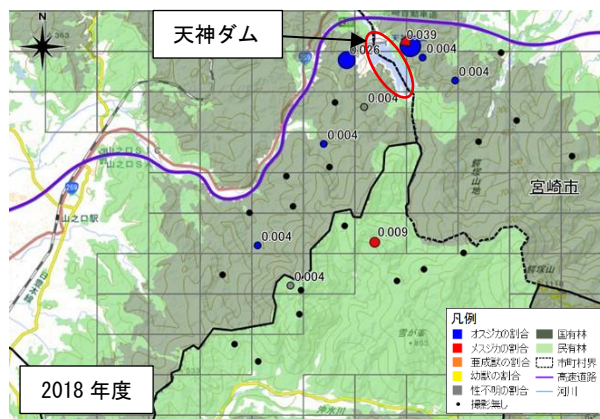
県北地域 食害・森林被害状況 (ニホンジカ)

■ 事業実施地域

県南地域

■ 出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	（ニホンジカ） ・ 定点カメラによるシカ侵入区域の目撃情報 平成 30 年度からの定点カメラによる目撃頻度について、シカの侵入想定区域から徐々に南下している。 ・ 県南地域におけるシカの目撃情報 平成 30 年度から日南市、串間市内でのシカの目撃情報が増えている。 令和 2 年度以降はメスの目撃情報もある。
事業実施後もしくは事業終盤・後半	（ニホンジカ） ・ 定点カメラによるシカ侵入区域の目撃情報 侵入想定区域の南側での目撃情報はあるものの、令和 4 年度から 6 年度にかけては、その頻度は一定で留まっている。 ・ 県南地域におけるシカの目撃情報 一定数の目撃情報はあるものの、目撃数は増加していない。 メスの目撃情報もあるが、幼獣の目撃はさほど多くはない。
評価	徐々に南下している傾向はあるものの、県南地域の爆発的な増加はないことから、侵入想定区域の捕獲により一定の効果があるものと考えられる。 侵入経路となっている天神ダムの北側の捕獲圧を引き続き高めることに加え、定点カメラでの目撃頻度が高くなっている天神ダム西側の捕獲を高めることが必要と考える。 一方で、目撃情報が串間市まであることを考えると、現在の侵入想定区域以外の侵入の可能性も検証する必要があると考える。



ニホンジカの撮影頻度（2018～2024 年度）

■ 事業実施地域

霧島山地地域

■ 出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	(ニホンジカ) ・ 生息密度 令和 5 年度 134.1 頭／km² ・ 捕獲効率 (CPUE) 令和 5 年度 0.019 頭／基日 (イノシシ) ・ 周辺区域の捕獲頭数 R3 : 494 頭、R4 : 467 頭、R5 : 291 頭 ・ 捕獲効率 前年度実績なし
事業実施後もしくは事業終盤・後半	(ニホンジカ) ・ 生息密度 令和 6 年度 53.2 頭／km² ・ 捕獲効率 (CPUE) 令和 6 年度 0.014 頭／km² (イノシシ) ・ 周辺区域の捕獲頭数 R6 : 411 頭 ・ 効果的捕獲促進事業における捕獲効率 令和 6 年度 0.004 頭／基日
評価	(ニホンジカ) 生息密度が減少しているほか、捕獲効率も前年度より低くなっていることから、捕獲による一定の密度低減効果は図られていると考えられる。 一方で、短期的な比較であるため、正確な密度低減効果を測定するために今後も継続して調査を実施する。 (イノシシ) 周辺区域における捕獲頭数は令和 3 年度から 5 年度までは減少傾向であったが、令和 6 年度は令和 4 年度捕獲数程度まで増加している。 捕獲効率は前年度のデータがなく比較できていないので、現時点で事業による密度低減効果については十分な評価が難しい。今後、データ収集を進め、効果の検証を行うこととする。

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	(ニホンジカ) ・ 食害、森林被害状況 食害については、低木層への食害が顕著に表れている。 森林被害については、樹皮の剥皮被害の発生が見られる。 ・ 農林作物被害状況 当該地域周辺の農林作物被害額は、平成 30 年度から、若干の増減はあるもののほぼ横ばいとなっている。 (イノシシ) ・ 農林作物被害状況 当該地域周辺の農林作物被害額は、平成 30 年度から、若干の増減はあるもののほぼ横ばいとなっている。
事業実施後もしくは事業終盤・後半	(ニホンジカ) ・ 食害、森林被害状況 食害の状況は令和 4 年度から比較して改善は見られていない。

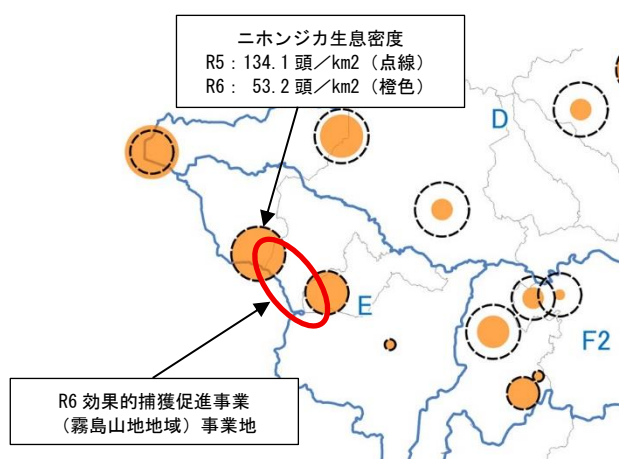
	森林被害については、剥皮被害に一部改善が見られている。 ・農林作物被害状況 令和6年度の主な被害作物は例年と変わらないが、例年と比べて、若干の減少を示している。 (イノシシ) ・農林作物被害状況 被害額は例年の被害額から大幅な増加に転じた。
評価	(ニホンジカ) 森林被害状況、農林作物被害状況のいずれも大きな改善は見られていないことから、引き続き、当該地域の集中的な捕獲を実施する。 (イノシシ) 被害額は増加に転じていることや、捕獲頭数の増加から推測すると、今後も継続した捕獲が必要であると考えられる。

実施地域	保護区名	管理区分	ハンターマップ (メッシュの番号)	CPUE (頭/基日)	CPUE (前回)
霧島山地 地域	霧島	E	233	0.006	-
	平成の森		245	0.007	-
	霧島		265	0.004	-
			266	0.004	-
県央地域小計				0.004	-

R6 効果的捕獲促進事業（霧島山地地域）捕獲効率（イノシシ）

実施地域	保護区名	管理区分	ハンターマップ (メッシュの番号)	CPUE (頭/基日)	CPUE (前回)
霧島山地 地域	霧島	E	233	0.016	0.018
			245	0.014	0.011
			265	0.013	0.021
	ひなもり台・平成の森		266	0.015	0.017
霧島山地地域小計				0.014	0.019

R6 効果的捕獲促進事業（霧島山地地域）捕獲効率（ニホンジカ）



霧島山地地域 ニホンジカ生息密度

県メッシュNo.	R3	R4	R5	R6	平均
47306722	122	122	102	125	117.8
47306727	99	107	97	82	96.3
47306772	1				1.0
47306777	62	62	4	31	39.8
47307677	37	20	5		20.7
47307722	13	13	19	18	15.8
47307727	76	61	18	77	58.0
47307772	61	63	34	70	57.0
47307777	23	19	12	8	15.5
年度合計	494	467	291	411	

効果的捕獲促進事業（霧島山地地域）事業実施区域周辺のイノシシ捕獲頭数

※集計は狩猟及び有害鳥獣捕獲によるもの

県北地域 食害・森林被害状況
令和4年度

(単位：%)

	草本被食率	低木被食率	ササ被食率	ディアライン	剥皮	森林被害	
えびの市6	—	1-10	1未満	なし	有	○	樹皮被害 30-60
えびの市9	—	25-50	1-10	なし	有	○	樹皮被害 20未満
高原1	—	1未満	—	なし	なし	×	
高原3	—	1-10	1未満	なし	有	○	樹皮被害 5
都城1	10-25	1-10	1-10	なし	有	○	樹皮被害 40
都城2	1-10	1-10	1未満	なし	有	○	樹皮被害 60

令和6年度

	草本被食率	低木被食率	ササ被食率	ディアライン	剥皮	森林被害		被害率
えびの市6	—	1-10	1未満	なし	有	—		
えびの市9	—	25-50	1-10	なし	有	—		
高原1	—	1未満	1未満	なし	なし	×		
高原3	—	10-25	1未満	なし	有	○	樹皮被害	10
都城1	1未満	1-10	1未満	なし	有	○	樹皮被害	20
都城2	1-10	1-10	1未満	なし	有	○	樹皮被害	60

※ 「—」についてはデータなし

※ 森林被害の「×」は被害なし

※ 青色塗りつぶしは、令和4年度から改善している項目、橙色塗りつぶしは悪化している項目

霧島山地地域 食害・森林被害状況（ニホンジカ）

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。）

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：4事業地のいずれにおいても、目標値を達成しており、達成が困難な目標設定とはなっていない。 依然として生息密度密度が高い霧島山地のニホンジカや、被害額が増加しているイノシシについては、捕獲目標を増やすなどの対応が必要となる。
	改善点：霧島山地地域のニホンジカ及びイノシシについては、前年度よりも捕獲目標を高く設定する必要がある。
【実施期間】	評価：霧島山地地域の捕獲開始時期が遅く、積雪時期に捕獲作業ができないなどの問題があった。
	改善点：積雪の前に捕獲を開始できるよう、実施時期の見直しを行う。
【実施位置】	評価：令和6年度実施において、実施位置による問題等は特になかった。 密度低減効果や捕獲効率の低下のある地域（日之影町見立、尾鈴山鳥獣保護区）については、実施位置の検討が必要。
	改善点：日之影町見立地区及び尾鈴山鳥獣保護区については、事業実施位置を一部変更する。
【捕獲手法】	評価：くくりわなによる捕獲で、概ね問題ないが、生息密度の低減が見られない場所については、誘引方法等の検討が必要。
	改善点：霧島山地地域の捕獲については、メスの捕獲を優先するような誘引方法を検討する。
【捕獲コスト】	評価：概ね問題なし。
	改善点：特になし。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：概ね問題なし。
	改善点：特になし。
【個体処分】	評価：適正に処理されている。
	改善点：特になし。
【環境配慮】	評価：霧島山地地域は国立公園内での捕獲であるため、公園外に搬出し適正に埋設等の処理を実施した。
	改善点：特になし。
【安全管理】	評価：緊急時の連絡網が整備され、十分な体制で捕獲を実施できた。
	改善点：特になし。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
4. 全体評価	
各事業区域において、目標捕獲数を達成できた。	
また、事故や法的な違反等もなく安全に捕獲事業が実施できた。	
ニホンジカについては、密度低減が見られる場所については、次年度以降、捕獲場所の変更等を検討する。	
イノシシについては、農林作物被害額の増加が各所で見られていることから、次年度以降はより集中的な捕獲を実施する。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	(ニホンジカ) ・生息密度の低減（保護区域 2 頭／km²、左記以外 5 頭／km²） ・農林作物被害額を 1.2 億円以下に低減 ・県南地域への定着防止 (イノシシ) ・農林作物被害額を 9 千万円以下に低減
寄与状況の評価	・単年度では評価しづらい部分もあるため、継続的な調査・検討が必要であるが、令和元年度から実施している県北地域においては、生息密度の低減が見られるような結果が示されていることから、当該事業による一定の効果がある。 ・また、霧島山地地域については、数字上は大きな密度低減の効果は見られないものの、捕獲事業者の話では、10 年前の捕獲よりも捕獲がしづらくなっているなどの話を聞いていることから、一定の効果は得られているものと考えられる。 ・県南地域において、ニホンジカを目撃情報はあるものの、メスの目撃情報は少ないことから、本事業による県南地域のニホンジカの定着防止に寄与しているものと考えられる。